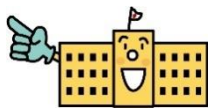


支援教育部だより



ほっと

No.35

香川県立香川東部支援学校 支援教育部 2024.10.4 発行

学びと育ちの相談センター

令和6年度 公開学習会報告

講話「何か気になる あの子・あの人」

講師：高橋 圭三 先生

今年度の公開学習会は、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学学長の高橋圭三先生をお迎えし、近年の多様な子どもたちへの指導支援をテーマに、脳の認知構造や経験知について写真や動画を使っている体験を交えながらご講演いただきました。

今回は人間の物の見え方、感じ方の仕組みについて、ご紹介していきます。

☆認知の仕組みとは？

人間は視覚、聴覚、触覚、嗅覚などから日々膨大な量の情報を得ています。そのなかから、重要な情報とそうでないものを取捨選択しながら生活をしています。人間の脳は以下の2つで、情報の処理、整理を行っています。

【^{けんざい}顕在的注意】…新聞の見出しのように、膨大な情報のなかから重要なものを取り出す。

【^{せんざい}潜在的注意】…それ以外のほとんどの情報を処理する。

例：声や音が多い場所で自分の名前を聞き取ることができる



【潜在的注意】で処理している情報

「ザワザワ」「ワイワイ」「～♪」

【顕在的注意】で処理している情報

「〇〇さん！」

☆経験知とは？

自らが経験したことで得た知識のことを言います。勘や感覚のことを指す場合が多いです。無い物を「そこにある」ように感じたり、全く違う別の物として認知したりすることがあります。

経験知を増やすのは、机上の学問だけではありません。人のかしこさは人と接したりコミュニケーションを取ったりすることのなかで育っていきます。人との関わりのなかで、自分と他人との違いを認識し、自分の感覚を修正することができます。小さな自己修正の継続が経験知を増やし、感覚をより一般的なものに近づけていくとされています。

☆対応の仕方



◎対応

- ・説明は時系列でシンプルに
- ・複数のタスクは示さず、ひとつずつ
- ・スマホでのスケジュール管理
- ・何故、人が嫌がるのかを間接的に説明
- ・第2人称での指示はマイナス
（「あなたは〇〇しなさい」など…）
- ・常に認められたい

顕在的注意をうまく使うことができない



重要な情報を取り出すことが難しい



自身の感じ方を適切に変更することが難しい



こだわり

思考の堅さ

変化への苦手意識

☆確実に「できる」道をつくる

人間はそれぞれ経験してきたことが違うため、他者と自分の世界の見え方も異なります。人にはそれぞれ固有の反応や記憶の方法があり、それは生まれつきのものであれば、経験からのものもあります。生まれつきのもを変えすることはできませんが、良い経験を増やせば増やすほど、世界の見え方の幅は広がっていきます。それぞれの子どもに合った質の高い経験を蓄積していくことで、経験知や経験則は強化されます。子どもたちの生活のしづらさの軽減につなげられるよう、日々の指導支援をしていきたいと思えます。

